



Tokyo Tech

平成29年5月16日

報道関係各位

東京工業大学広報・社会連携本部長
岡田 清

東京工業大学・ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校 合同シンポジウム開催のご案内

「科学・アート・デザインの実験 —The experiment—」
—新たな価値、学問、教育の創出に向け、科学技術とアート／デザインの化学反応を—

東京工業大学は、ロンドン芸術大学と合同で、日英のトップクラスの科学者、デザイナーや芸術家によるシンポジウム「科学・アート・デザインの実験」を5月27日、東京・渋谷駅前の複合商業施設渋谷ヒカリエで開催いたします。

急速な発展を遂げた科学技術によって、コンピューター、AI（人工知能）、生命科学やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などが、私たちの社会・経済や生活スタイルを変革し、ひいては国際政治にまで多大な影響を与えるようになりました。一方で、社会の変化は大統領選挙後のアメリカ国内外に見られるように閉塞感や焦燥感、危機感をもたらし、民主主義や国際協調、科学的な価値観が脅かされるのではとの心配も出ています。今こそ科学とアート／デザインの異分野の英知を結集し、新学問領域に発展させるための議論が必要とされています。私たち東京工業大学は、世界に冠たる理工系総合大学として、共同体のあり方そのものを問いつつ、科学技術とアート／デザインの新たな融合と協調関係を生み出し、ダイバーシティー（多様性の尊重）や倫理、教育、街づくりなどに寄与することを狙い、新しい問いを投げかけたいと思います。

共同主催のロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校（CSM: Central Saint Martins）は、世界の3大ファッションスクールに挙げられ、デザイナー憧れの芸術大学です。日本の先進的なデザイナーと研究者も加わり、ファッション、環境、サステナビリティなどをキーワードに議論し、科学技術とアート／デザインの融合がもたらす新しい研究と教育の枠組みの創出と、社会貢献、地域連携の未来につなげます。

キーノートセッションの司会は、政治経済、国際、社会問題の分析、執筆、解説で高い人気と影響力を誇るジャーナリストの池上彰・東京工業大学特命教授です。また都市づくりのトップランナーである東京急行電鉄株式会社の協賛、また英国大使館の後援もいただいております。

東京工業大学・ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校 合同シンポジウム

「科学・アート・デザインの実験 — The experiment —」

【日時】 2017年5月27日(土) 13:00~18:00 (12:30 開場)

【会場】 渋谷ヒカリエ ヒカリエホールB (東京都渋谷区渋谷 2-21-1)

入場無料、事前申し込み制(満席のため、受付終了)

【主催】 東京工業大学、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校

【特別協賛】 東京急行電鉄株式会社

【後援】 英国大使館

【協力】 公益財団法人 日本交通文化協会

【モデレーター、登壇者】

ヘザー・バーネット/ キャロル・コレット/ 日比野克彦/ 広瀬茂男/ トム・ホープ/ 池上彰
/ 伊藤亜紗/ 小長谷明/ セリーヌ・ムージュノ/ 野原佳代子/ ジェレミー・ティル/ 豊田啓介
/ 山懸良和(敬称略)

【プログラム】

13:00 開会挨拶

三島良直(東京工業大学学長)

ジェレミー・ティル(ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校学長)

13:25 セッション1 「デザインと産業」

司会: ジェレミー・ティル(ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校学長)

15:00 休憩

15:30 セッション2 「アートと科学技術」

司会: 野原佳代子(東京工業大学教授)

16:55 キーノートセッション

モデレーター: 池上彰(東京工業大学特命教授)

17:55 閉会挨拶

丸山俊夫(東京工業大学 理事・副学長(教育・国際担当))

【問い合わせ先】

東京工業大学 環境・社会理工学院 野原 佳代子 教授 (プロジェクトリーダー)

Email: nohara.k.aa.m.titech.ac.jp

TEL: 03-573-3521 (研究室直通)

【取材申し込み先】

東京工業大学 広報・社会連携本部 広報・地域連携部門

Email: media@jim.titech.ac.jp

TEL: 03-5734-2975 /FAX: 03-5734-3661

【参考情報】

「科学とデザインの新たな関係」

世界に閉塞感や焦燥感が横溢する中で、大学には社会に問いかけ、議論すべき大きな役割があるはずです。科学技術はデジタル化や AI やエネルギー面で革新を起こし、産業や社会構造を変えるなど、ひとのあり方をも左右する大きな力があります。

一方でアートやデザインにも、根源的な文化創造行為として社会を動かす確かな力が存在するはずです。歴史を振り返ってみれば、ピカソの「ゲルニカ」はナチの無差別殺戮に対して大きな怒りを呼び覚まし、世界の世論を動かしました。カーソンの『沈黙の春』は環境破壊とエコロジーのコンセプトを言語化して世に問うたものです。また、最近のバイオシンセティック（合成生物学）はピカピカの先端科学ですが、植物に学びつつこれをファッションの素材として取り入れ、環境問題の解決に切り込もうとするデザイン分野の開拓にもつながるものです。

このように科学とアート、デザインの融合によって、既存の価値観に疑いを投げかけながら新たな共同体や人のあり方を創造する学問のあり方が必要とされています。東工大には、サイエンス・テクノロジーと社会を多様な媒体でつなぎ、橋渡しをし、それを言語で表現するスキルの蓄積があります。ロンドン芸術大には、最先端のアートとデザインの創造体と、それを言語で語るスキルがあります。両者はこうした新しい分野を形成する特異なインターフェイスを持っているのです。

今回のシンポジウムでは、科学とアート、デザインがどんな創作手法を使っているのかを明らかにするのが狙いです。両者ともに準備、仕掛け、制作、結果の評価、分析を通じて次なる創造作業に昇華させる確かな手順があるはずで、それを「実験」と呼ぶことにします。科学・技術では、「実験」の文化は比較的明示化されていますが、異分野間でそれをオープンに語ることは多くありません。アート／デザインの分野では暗黙知のままでした。

両者の「実験」のありようを付き合わせ言語化することによって、コミュニケーションの共通基盤が生まれ、この作業自体が新たな新分野を生み出すことにもなるはずです。

「ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズ校の紹介」

「オスカー賞を獲りたいならロンドン芸大 CSM に行け」と言われるほど、舞台芸術をはじめとするアート、デザイン分野では広く世界の注目を集めています。ジョン・ガリアーノ、アレキサンダー・マックイーンなど社会派デザイナーを多く輩出しています。

「東工大の想い」

ファッション、ウェアラブル、環境、サステナビリティをキーワードに、新たな視点で科学技術とアート／デザイン分野の魅力的な融合を生み出し、研究と教育の新領域を生み出すことが狙いです。このことを通じ、理系進学の少なかった女子学生を含む新たな学生層の獲得と、新学問領域の開拓、産学連携の展開、地域連携を含む社会貢献を目指します。

会場のある渋谷は国際的にもよく知られたブランド力のある大都市です。これまで関わることのなかった分野、モノ、人がめぐり合い、「融合、連携のスクランブル」の中からイノベーションを起こす場としてふさわしいと考えます。日本発の新たな研究・教育を生み、育てることによって、渋谷の都市文化に独特の付加価値を加えることも構想しています。

参加をご希望の場合は、お手数ですが FAX にてご連絡いただければ幸いです。
(準備の都合上 5月23日(火) までにご連絡いただけますようお願い申し上げます。)

【 シンポジウム 参加申込書 (取材者専用) 】

東京工業大学・ロンドン芸術大学CSM合同シンポジウム

「科学・アート・デザインの実験 —The experiment—」
—新たな価値、学問、教育の創出に向け、科学技術とアート／デザインの化学反応を—

【送 付 先】

東京工業大学 広報・社会連携本部

FAX 03-5734-3661

貴 社 名 :

御 名 前 :

御連絡先 TEL _____

E-mail _____

【会場ご案内】

東急東横線・田園都市線、東京メトロ半蔵門線・副都心線「渋谷駅」15番出口と直結。
JR 線、東京メトロ銀座線、京王井の頭線「渋谷駅」と2F 連絡通路で直結。

